

解題

藝苑譜 一卷

清田 絢著

清田^{キヨダ}絢^{ユキ}字は君錦、初の字は元瑛、僖叟、又は孔雀樓主人と號す、通稱は文平、即ち福井藩の文學伊藤龍洲の季子にして、江村北海の弟なり、龍洲出でて伊藤氏を繼ぐ、故に僖叟をして本姓に復し、清田氏の祀を奉ぜしむ、清田氏は播磨の著姓なり、僖叟始め物氏の學を奉ぜしが、後ち自ら其の非を悟り、一に朱子を以て主とせり、父の蔭を以て擢んでられて、越前の儒員となれり、伯兄伊藤錦里と共に優遇を蒙れり、平素喜みて通鑑を讀み、之を批評し、通鑑三編批評十卷を著はせり、自著の通鑑批評本は、今、杉浦梅室翁の有に歸せり、又た好んで史記を讀み、史記律を著せり、天明五年三月二十三日、京師に歿す、年六十七、或は曰く七十八。

此書は専ら詩を談ずるものに非れども、多く作詩者の知らざる可らざること述べたり、別に藝苑談の著あり、此二書を夷考するに、談は汎論に屬し、譜は各

解題

日本詩話叢書

論に屬せり、藝苑談は後卷に掲ぐべし。

藝苑譜序

清君錦先生撰藝苑譜，既成，命太玄序之。太玄謹序曰：嗚呼！藝文之爲業也，廣矣大矣。夫經史者，藝文之大本，不敢論也。而雜家之辯詞流之藻，或浮誇自恣，謂脩辭在於斯，或草野不飾，謂達意宜若是。文勝質質勝文，俱不免其弊也。傳曰：博學於文，約之以禮。禮者何也？式是已。是以知學者不患不博，而病不能約也。若夫貴賤之等，親疏之殺，官階職掌之辨，姓名字號之分，百爾稱呼，豈無式而可哉？乃文房器用，亦宜各有式。先生嘗論藝文之式，隨錄成一冊子，名之曰藝苑譜。其不謂之式，蓋謙辭爾。先生嚮者撰藝苑談，概其大旨，爲救時弊也。喻之於醫方，藝苑談，汎論世之嬰疾病者，而至其論治，是編有之。其所以教喻人，最爲深切也。嗚呼！先生於藝文有大本，故其約言之如此云。

日本詩話叢書

明和己丑夏四月

二

柚木太玄謹序

藝苑譜

越國文學播磨 清 絢 撰

恐レ多キコトナカラ、吾國ノ文物ハ、崇神天皇ヨリ益盛ニナルト云ベシ。至尊ノ位ニ在テ、周公ノ任ヲ兼帶セサセ玉ヒシ抑又一時朝廷人才ニ乏シカラズ、四岳二十八牧、美ヲ海西ニ擅ニスルコトヲ得ザルベシ。

天朝天使ナドト云コト、證據云マデモナシ、然レドモ、天朝ヲ朝廷ト云ノ代リ、天使ヲ勅使ノ代リニ用ルコトハ心得ベカラズ、大小ノコトニヨラズ、勅使ト書ベシ。天使ト書ハアヤマリナルベシ、然レドモ、天朝天使ト書ザレバナラヌ處モアリ、ソレハ時宜ニヨルベシ。

外國ノ表文不敬ナルトテ、菟道皇子マブリ捨サセ玉フ、日出處ノ天子ニ至テ吾國ノ氣益大ニ伸ブ。

日本書紀ノ文ニ諸體アリ、尙書ヲ見玉ヒシ處ハ尙書、史記ヲ見タマヒシ處ハ史記、

6
文選ヲ見タマヒシ處ハ文選各ソノ體ヲ以テ仕立タモフトミニ、廣才博學、今ノ儒
生ノ企テ及ブベキニアラズ、吾國ノ周公ト申トモ苦シカルマシ、河間、東平ナドハ、
遙ノ下風ニ出ヅ、漢南道人ハ輕薄ヲマスカレズ。

詩文ヲ書ニハ帛ヲ用ユルガヨシ、紙ヲ用ユルナラバ、貫之、行成ヨロシ、奉書美濃紙
センクハ西ノ内ナドハ、全幅ノ紙ニ地ヲシテ用ユベシ、其詳ナルコトハ、巳ニ孔雀
樓筆記ニ出ダス、紙ヲ用ユルナラバ、重ニシテ用ユベシ、カサネノ色ノ取合セハ、時
宜ニヨルベシ、松重、藤重、萩ノ經青、祕色、海松色、蝦手紅葉、烏子重ナド尤ヨロシ、柳色
ハ用捨スベシ。

御服ハ勿論、大臣親王ナドニ限リタル色モ憚ルベシ、朝鮮ヘ下サル、御書、烏子ノ
二枚重ニ、金泥ニテ松竹ヲ畫キ、總金砂子ノ紙ニモノセサセ玉ヒ、ナシ地高マキ繪
ノ御文匣ニ、直紅ノ御總付ノ紐ナルヨシ、新井瓊君美ノ書ヲカレシ書ニ見ユ、加探
ノ事申ハ恐レアレドモ、今ノ唐土メカス人、吾國ノ故實知ザルガ嘆カハシキニヨ
リテ、アラカタニ記シヲクモノゾ。

唐土ニテ御講ノ式ハ、代々各少シヅ、ノ異同アリ、文獻通考ニ詳ニス、明ニ至テ禮

益備ハル、御講ト云ハ儀式甚重シ、文武ノ大臣以下皆陪列ス、諸門諸口ノ警固モ、甚
 嚴重ニ設ケラル、御几御書ノ役人モ、皆上等ノ官人ヲ用ニ、講畢レバ、内閣ノ諸臣講
 官及ビ諸儒官ニ宴ヲ賜フ、講畢テ、講官拜禮ノ退出セントスルトキ、天子講官ニ開
 テ曰、先生等酒飯ヲ喫セヨト、毎講カクノ如シ、直講ト云ハ儀式事省ケリ、御几御書
 ノ役人モ皆内官ヲ用ユ、文武ノ諸臣ノ陪列、并ニ諸門諸口ノ警固ナドモ、甚省略セ
 ラル、但シ講臣稿勞ノ禮ハ御講ニ同ジ、夏日宮扇ノ賜、ソノ外定格銀綺ノ賜ナド、コ
 レヲ宋朝ニ比セバ、十ガ二ニモ及バズ、然レドモ當時ニアツテハ、恩禮諸役人ニス
 キンデタリ、モシソレ宋朝學士ヲ待スルノ禮ハ、寵賚古今ノ随一トス、凡ソ歴代翰
 林、并ニ諸學士ノアヒシラヒ、ソノ委シキコトハ、文獻通考正續編ニ載ス、猶マ大明
 ノ禮式ハ、瑣碎錄、湧幢小品ナドニ詳ニス、清ニ至リテ専ラ御書ノ賜アリ、臣下ノ身
 ニトリテハ、尤規模トスベキコトナレドモ、外ノ賜ナクシテ、メタト御書ヲ下シタ
 モフ、但シ康熙ハナラ其理アリ、雍正乾隆ニ至テハ、輕薄ヲ免レズ。

宋ノ仁宗、屢講筵ニ御シタマフ、諸學士輪流シテ進講ス、一日一講官、束脩以上ノ章
 ヲ進講ス、講畢リアラタメテ奏上シテ曰、陛下ヨク御聞アソバサレヨ、聖人ト云ヘ

ドモ、禮物ナケレバ教サセラレズト、仁宗微笑シタマフ、諸講官口惜ガレドモ詮方
ナシ、即日諸講官ニ卷物二ツソツヲ賜フ、蓋シ不時ノ賜ゾ、皆辭シテ受ズ、カノ進講
セシ一人ハ、辭セズシテ拜領ス。

契丹ノ道宗御講ノ時、講官夷狄ノ君アルノ章ヲ進講ス、早口ニ云シマハントス、道
宗ノ玉ハク、少シモ苦シカラズ、古ノ夷狄ハ禮法ナシ、我朝ノゴトキ、豈コレニ比
センヤト、逐一明白ニ講ゼシメ玉フ、ア、古ヨリ君ナキヲ憂ヘズ、良臣コソアラマ
ホシケレ、

明ノ太祖諸儒臣ニ詔シテ、閣江樓ノ記ヲ作ラシム、皆々撰上ス、シカアレド、樓ヲバ
ツイニ作ラレズ、一日左右ニ謂ラノ玉ハク、朝廷人ナシト云ベシト、蓋シ諸儒臣ノ
心ヲ引見ントノコトニテアリシトゾ、諸記文何レモ阿諛ノ辭ノミニテ、ソレヲ諫
シ文ハ、一篇モナカリケルトゾ。

明ノ太祖中年ヨリ、政道猛火ノ燃ルガゴトシ、宋景濂一日詔ヲウケテ文ヲ撰上ス、
ソノ日沈醉シテ夜ニ入レドモ醒メズ、門人方孝孺ノ師ノ罪ニアハンコトヲ恐
レ、ヒソカニ代作ス、翌朝ニ至リ景濂酒ヲメ頓足シテ曰、我今日死セン、孝孺代作ノ

コトヲイヒ、コレヲ潤色シテ奉リ玉ヘト云、景濂トリテ見、大ニ悦テ曰、潤色マデモナシト、其稿ヲ懷中シテ參内シ、太祖ヘタテマツル、太祖大ニ孝孺ヲ稱美シ玉フ、アア世ニハカクノ如キ門人サヘ有モノヲ。

范祖禹ノ講談ヲ、蘇東坡大ニ稱美シテ、講官ノ第一トスベシト云シ、陸象山、喻於義、喻於利、ノ一章ヲ講ゼラレシヲ、朱文公甚面白キコトホメ玉ヒシ、今ノ世ニテハ講談ヲ聽人、タゞ多ヲ食ル、講ズル人モ、只早ク埒明ンコトヲ思フ、真ノ講談講釋ハ、ホトンド斷絶スト云トモ可ナラン、

藝苑談ニモイヒシ通り、職名ヲ私ニ撰スルコト、努々有ベカラズ、モシヤムコトヲ得ズシテ、是ヲ唐土文ニ譯セバ、各其見職ヲ以テ譯シ、名目ニナラヌ様ニスベシ、末ニソノ二三ヲ舉ラク、以テ其餘ヲ推知ルベシ。

宰相ヲ上相列相ト書ハ誤ゾ、列相ハ列侯ノ例ヲ以テ書タルナランガ、列相ト云テハ義通ゼズ、員ノ多少ニヨラズ、大執政ト書ベシ、其第一座ヲバ首相ト書ベシ、文勢ニヨツテ大拜ト書時モアルベシ、參政ノ稱モ誤ゾ、大從政ト書ベシ、唐土ノ官名ヲ用ザルヲヨシトス、凡ソ侯藩ノ職役ハ、各藩異同アレドモ、大段ライハ、家老ヲ執

政、城代ヲ留守管、中老ヲ從政、番頭ヲ土帥、奏者番ヲ司謁、近習頭ヲ常隨管、小性頭ヲ親隨管、奉行ヲ司計、目付ヲ執法、物頭ヲ卒帥、使番ヲ司使ト書ベシ、其餘ノ職役モ是ニ準ジテ推考フベシ、目付ヲ監察ト書ト、物頭ヲ頭目ト書ハ誤甚シ、唐土ニテ六軍三軍ナド云ヲバ、手短ニ合點セントセバ、此方ニテ六組三組ト云心持ゾ、平土ヲ四組ニ立タル藩ナラバ、書院番ヲ中軍、大番ハ本軍、留守居番ハ留守軍、新番ハ新軍ゾ、太平ノ御代ニ軍ノ字ヲ憚ルトイハバ、中部本部留守部新部ト書ベシ、隊伍ダイゴ組立ヲ、押出シ藩中ヘ知ラセタル所ナラバ、侍大將ヲ兼帶セル家老ヲバ、某部大夫ト書テモ可ナルベキカ、以上ノ諸名ハミナ見職ヲ以テ稱トス、私ニ名目ヲ撰スルトハ、甚ダカハレルゾ、右ノ諸稱ニミナ、大ノ字ヲ加レバ、侯藩ノコトニハナラヌト心得ベシ、尤少々ノ異同モアルベシ、大護衛コ大鎮臺オウ大協衛キョウ大總管ソウナドハ、藩職ニ關ルコトニアラズ、恐多ケレバ詳録セズ、凡ソ譯セズシテモスムヘキ所ナラバ、譯ヲサヘセザルガヨシ、況ヤ私ニ名目ヲ撰スルヲヤ。

大藩ノ家老ヲ大夫ト書コト、叔爵セザル人ニハイカハト云、無理ニテハナシ、然レドモ春秋ノ例ヲ以テ云ヘバ、全ク鹵莽トモ云レズ、但シ大藩ノコトナルベシ、國卿

ハ唯一人ナルベシ、左傳ノ例ヲ以テ直用セバ、誤甚シ、此等ノコトハ、唐土ノ歴史ニ精熟シ、吾國ノ故實記録ナトヲ合セ考ヘタル人ハ、自然ト明白ナルベシ。釋奠釋菜ノ事、ヲツトツテ文獻通考ニ出ツ、吾國ニテモ、孔子祭ノ名ハ古シ、ナラ其詳ナルコトハ、禮儀類典ニ出ツ、

唐土ノ官名、漢以後ハクダシクナル、唐宋ノ二代、煩濫極ル、歴史官職ノコトニ精熟シタル人ナヘ、十ニ二ツハ解セラレザルコトアリ、恐レ多キコトナガラ、大政大臣、内親王、大納言ナド云美號ハ唐土ニモ少ナシ、親王ト云稱ハ唐ヨリ有リ、一字王ノコト、宋元明ニ至リ益盛ニナル、吾國ノ四親王家ハ、御稱號ハ二字ニモセヨ三字ニモセヨ、俱ニ一字王ト心得ベシ。

一字王ハ國王ノコト、二字王ハ郡王ノコトナルヲ、國王郡王ト云ハズシテ、一字王二字王ト云、容體ラシク云ナスト、予ヲソシル人有ベシ、一字王ハ國王ノコトイフマデモナシ、然レドモ宋以後ハ、此外ニ別ニ國王ト稱スル者アリ、宋以前ヨリモ、唐土ノ天子外國ヲアシラヒ玉フニ、敵國ノ禮、國主ノ禮、國王ノ禮、諸王ノ禮ノ差別アリ、所謂一字王ハ、諸王ノ中ヘ入ル、國王ノアシラヒハ、諸王ヨリ一等貴シ、國主ハ又

國王ヨリ甚貴シ、遣唐使ノアリシトキ、唐土ヨリ吾國ヲ待スルニ、國主國王トノアヒダヲ以テセシ時モアリ、國主ノ禮ヲ以テセシ時モ有シ、コノ敵國ノ禮、國主國王諸王ノ禮、差別アルニヨリ、國王ト云ハズシテ一字王ト云コトゾ、謡曲ニ知ラズナモノヲノ玉ヒソト云句アリ、藝苑ノ士是ヲ思ベシ。

清ノ代ニ至リ、内大臣ノ官アリ、ソノ勤メ方ハ、若御老中ノ役ニ類ス、此ハ全ク吾國ノ官名ヲ聞及テ、真似ビタルナルベシ。

漢文帝ノ匈奴ニ於ルハ、敵國ノ禮ヲ用ヒサセ玉フ、宣元ノ時ニ至リテハ、匈奴ヲ待スルニ、國主ノ禮ヲ以テセラル、或ハ國主國王トノ間ノ禮ヲ以テセラル、周ノ世宗ノ南唐ニ於ルモ、國主ノ禮ヲ以テセラル、南宋ハ金ヨリ宋ヲ待スルニ、國主ノ禮ヲ以テス、叔姪ノ禮ヲ以テスト云コトハ、大方國主ノ禮ヲ以テスルニ近キモノゾ、講釋講談ノチガヒハ、猶談義ト說法トノ如シ、書生輩ヘ云聞ルニハ、講釋モ宜シ、其外ハ皆講談タルベシ。

御前式ト云ハ、講者ハ甚勞シテ、聽人ニハ格別ノ益アルニモアラズ、時宜ヲ見合スベシ。

尊貴ノ前ニテ講談スルニハ、講中ニテ云ヤミテヒカヘ居、又講ズルコト多キモノ
 ゴヤムコトヲ得ザルノ用事ニテ外人ト談話シタモフ、或ハ用書ヲ書シメ玉フノ
 類ニ因テ然リ、其事スミテ再ヒ講ズル時、音聲調子ナド、トモニ新ニ講ジ懸ル時ノ
 ヤウニナルハ、事ニ害損ハナケレドモ、何トヤラン恰好セズ、初講ジヤム時ノ音聲
 調子ナドヲ其儘ニ以テ、再ヒ講出スベシ、カクナケレバナラズト云ニテハナケレ
 ドモ、心得アルベキコトゾ、
 講ニ臨テハ、世ニ云アタリ障リヲバ、少モ構フベカラズ、タマシ鄙俚言語ハ、イカニ
 モエラシメ用ニマシキコトゾ、詐リヲウソ、頭ヲアタマト云ノ類、一二ヲ舉テ千萬
 ヲ推知ルベシ、

宇治ノ左大臣ヲ世人ハ只暴悪人ト云、中世以來、眞ノ學問ヲモノシ玉シハ、コノ大
 臣ニテアルベシ、林祭酒ノ國史實錄ニ、具ニ記シヲカレヌ、コノ大臣ト信西トハ、惜
 キカナ出ルコト、其時ニアラザリシコトヲ、

元弘建武ノ頃、伊勢ニ垂水廣信ト云人アリ、上書シテ帝ヲ諫ム、キカレズ、因テ名ヲ
 カクシテ野ニ耕ス、其後諸貴人シバ、召ドモ出デズ、私ニ史六十五卷ヲ撰ス、コ

ノ時朱文公注ノ四書始テ吾國へ來ル、廣信深クコレヲ尊信シ、萬里、小路黃門ニ勸
テ是ヲ讀シム、此二人モ惜ムベシ、昇平ノ時ニ出ラザルヲ。

小倉正二位大納言ハ、文永中ニ歌人ノ名高シ、其言ニ曰、今ノ世ノ歌ハ、輕薄ノミナ
レバ、カマシ戀コイ題モ恐ル、コトナシト。

裏松贈左大臣ノノ玉フ、人常ナラザル名ヲ呼ベカラズ、名常ナラヌ人ハ、其心常ナ
ラズシテ、其モノ云コトモ亦常ナラズト、予藝苑談ニ李笠翁、寄園寄所寄ナドヲ論
ゼシ、公ノ論先スデニ是ニ及ブ。

清伊豫介ハ、天文中ノ人ニテ、時人コレヲ清賢人トヨブ、十三經ヲ書寫シテ奏覽セ
ラレシ。

重秀ノ右中將ノ曰、今ノ世ノ道ヲ好ル人ハ、大方道知ラヌ人ゾ、常ザマノ人ヨリ意
地ヲロシ、人事イ、ノ長者ナルト。

桂興院ノ關白ノノ玉フ、子トシテ父ノ職ニウツキハ、子ニ非ズ、他人タルトモ、其職
ヲ繼スル、誠ノ子ナルゾ。

後法性寺關白家ノ女房月子ノ言ニ曰、ナマ心ナル學者ノ、己ガ拙キ心ヨリ、昔ヲ量

ヲ云コソ悲シケレ。

今ノ世ノ儒者ハ、孔回ノ教ヲ見知テ、口ニカシコク云バ、愚ナル人是ヲ尊ヒ敬フテ、其行ノ善惡ヲ辨ヘズ、今ノ人ニ師トナル者ハ、中々ニ無ランガヨカルベシト、法住院殿ノ簾中ハノ玉ヒシトカヤ、孔墨ノ稱ハ唐土ニ多シ、孔顔ノ稱モアリ、孔回ノ稱ハ珍ラカニ覺ユ、一故實ニ具ベシ、ア、孔回ノ教ヲ見知テ、口ニカシコク云人サヘ、今ニテハ得ガタシ、人ノ師トナフテハ、タゞ誤ヲ傳ル人コソ多カレ。

文正ハ文臣ノ謚ノ最上トス、其始ハ甚ワケナキコトゾ、唐マデハ文臣ノ謚ニ文正ナシ、文貞ヲ最上トス、宋ニ至リ仁宗ノ諱ヲ辟テ、文貞ヲ文正トス、其外魏徵ヲ魏證、貞觀ヲ正觀トスルノ類、ミナ仁宗ノ諱ヲ辟ルヨリ始ル、爾後文正ヲ美謚トス、其本ヲタヅネザルニ似タリ。

賀ノ詩題ニ、某圖ニ題シ、某人ヲ壽スルト云コト、唐土ニ甚多シ、ソノ物ヲ贈リテ、附スルニ壽詩ヲ以テスルコトゾ、吾國ニテ本人ヨリカク云フ題ヲ出シテ、壽詩ヲ人ニ求ム、求ムル人モ、求メニ應ズル人モ、一向ニ字義ヲシラズト云ベシ、誤甚シ、笑フベキコト甚シ。

大東世語ニ史館茗話ヲ多ク取用ユ、彩色ノ美ハ世語ニアリ、古色ノ蔚然トシテ、一時ノ情狀宛然タルハ茗話ニアリ、俱ニ奇珍スベシ。

藝文ノ枝葉ノ中ニテ、起本ノ明白ナラザルハ、私印ナルベシ、其アラマシハ、學古編ニ載ス、私印ハタゞ目ダ、ユ耳ダ、ユヲヨシトス、水晶宮道人、唐土人サヘ、蔘頭ニ冷水ヲアビタリ、祭ト云ハ北祭南祭ノ事、比叡ヲ山ト云、三井ヲ寺ト云、元信ヲ古法眼ト云、櫻ヲ花ト云、雉ヲ鷹ノ鳥ト云、自然ト人ニシラル、ヲバ、手柄ト云ベシ、方寸ノ印、中ニ表字表號道號ノ類マデ書附ヲキテ、人ニシラレント思フ、笑フベシ、用フベシ。

俳優ノ事ハ假ニモ云ベカラズ、シカアレド、近キ頃松兵衛トカヤ云男娼アリテ、世人ニシラレシ、今ノ儒生輩タゞ其姓名表字表號ナドヲ唐土メカシ、幾度モ改メカユ、ア、儒生ニテ、一男娼ニ及バズシテ可ナランヤ、長大息ヲナスベシ。

甲陽軍鑑ニ戰ヲ記セシ所ハ、ヨク唐土ノ文法ニカナヒタリ、重編應仁記、北國太平記、ナドモ頗ルヨロシ、太平記、陰徳太平記、後太平記、ナドノ戰ヲ記セル所ハ、鹵莽杜撰甚シクテ、唐土ノ文法ハ地ヲ拂ヲツク、濫惡極ルトイフベシ。

戰ノ度ゴトニ、其日ノ出立ヲ逐一微細ニ書シルシ、サテ戰ヲ云ニハ、軍勢ノ多少ニ
 カマワズ、イツデモ鯨波地ヲ動シ、太刀ノ鐔音天ニ響キ、金翅鳥動シテ、エイ／＼聲
 ライダシ、親討ルレドモ子ハ知ラズ、兄手ヲ負テモ、弟ハカヘリミズ、イツハツベキ
 軍トモ見ヘザリケリト云ノ語ナキコトハ少シ、カクテ兩陣サツト引テ、手負死人
 ヲ數フレバ、三百人ニ餘レタナドアリ、腹ノ皮ノ至極ト云ベシ、市人ノ二三十人モ
 ヨリタイサカフスラ、ソノ喧サ甚シ、マシテ千以上ノ人數打合トキ、物靜ニテ茶湯
 ノ席ノコトクニ有ベシヤ、云ズシテシレタルコトゾ。

謙信信濃ヨリ陣拂ノ時、長尾義景殿ヲシ、地藏嶺ニテ大反シニトツテカヘシ、甲斐
 ノ兵ヲ打破ル、信玄北條ト對陣ノ時、馬場美濃軍見物ニ來リ、ソヅカノ手勢ニテ、喰
 留ラレタル味方ヲ引アゲ、松田ガ人數ヲ推拂フ、此兩所ハ殊更ニ戰ヲ云シ語ハナ
 シ、サレトモ其軍容戰勢ノ猛烈ナルコト、紙上ニ盈溢ス、川中島ナドモ事長ク排比
 鋪陳シタル語ナシ、然シテ唐土ノ文法ヲ甚ヨク得タリ、信玄上野衆ト初テ戰ノ所
 ナドハ、一入文法勝ル、高坂ハ一良將タリ、文章ニテ不朽ノ名ヲトルノ心ハナシ、然
 レドモ文ハ妙境ニ至ル。

兩方合シテ一萬内外ノ人數ヲサヘ、コト仰山ニ云ナラバ、鉅鹿昆陽赤壁澠水邯鄲山
 鄴陽ナドノ戰ヒ、敵味方合シテ四五十萬以上ノ人數ヲバ、イカソ書ヘキヤ、鄴陽湖

ノ戰ハ、兩軍合シテ七十萬餘、三日三夜鏖戰ス、此等ヲバイカソ書ベキヤ。

書凡ハ黒漆ヨシ、朱漆ハコレニ次ク、書凡ニシク物ハ、猩猩緋、緋羅紗、緋天鷲絨ヲヨ
 シトス、然レドモ貧儒窮生ナドハ、赤毛氈ヲ用ユベシ、青氈ヲ用ユルハ、鹵莽甚シ、王
 子猷、鄒廣文ガ青氈ノ故事、一ツハ眞率、一ツハ貧窶ヲ云、トモニ雅事ニアラズ、ソザ
 ト是ヲ用ユルハ、笑ベキコト甚シ。

凡ソ文房ノ具、奢侈ハ禁ズベシ、分ニ應ジテ物數奇ハアルベシ、大ニ塗物、蒔繪物ヲ
 ヲシトス世ニ云サビ物、物數奇ニ過タル物ハ、ムサクキタナシ、貴人及ビ巨豪ナド
 ハマダシモ可ナランカ、中等以下ノ資産ナルモノ、又ハ窮儒貧生ナドハ、サビ物ヲ
 用ユベカラズ、飲食ノ器ハ猶更此心得アルベシ。

宇士新物數奇ノ筆牀、形頗ル宜シ、夫ヨリハ調度掛ヲヤツシタル筆筒尤宜シ、是モ
 黒漆又ハ朱漆ニシテ、金泥ニテ蝶鳥ヲ畫タル、ハナハタグ雅ニテ宜シ、筆管ハ蕭繹
 ガイヒシ金銀管ハ、吾トモガラノ事ニアラズ、黒漆ヨシ、朱漆コレニ次ク、北地ニア

ル夜又竹、及ビ世ニ云豊後竹、又ハ火色サハシ筥ナドノ矢竹モヨシ、右夜又竹以下ノ諸管ニハ、金泥ニテ二三字ホド銘ヲカクカ、太キ管ナラバ、蝶鳥ヲチラシ畫クベシ。

硯ハ天師舍人玉堂ナドノ形宜シ、其中玉堂ハ、朱硯ニハヨシ、墨硯ニハ便宜ナラズ硯ノ蓋及ヒ箱ハ、ユリ物ニテ、銘ハ金泥ニテ書ヘシ、明繪ヲセバ蝶鳥宜シ。

朱墨硯トモニ、熱茶ニテ度々洗フベシ、墨モ右ニ同ジ、墨ヲタビ／＼アラヘバ、龜甲ノ裂文生ジテ見グルシ、シカレドモ膠氣ツキテ書字ノ便宜ナルノミナラズ、且ツ甚奇香ヲ發ス。

墨ハ價ノ貴キ品多シ、貧儒ノ受用ニハ、尊樂ニテ造ル出羽ノ紅花汁ニテ製セル墨甚宜シ。

帙子ハ甚古キ物ゾ、竹ニテ編テ、裏ニハ錦金欄ナドヲ附ル、高雄ノ神護寺ニアリ、其外衣冠ノ家又ハ好事ノ人ナトニハ、幾等モアルベシ、今ノ書帙ヨリハ、狀甚古雅ナル物ゾ。

世ニイフ見臺ハ、唐土ニハ見ヘズ、懶架ト云モノヲ充テ用ユレドモ、睨ト見臺ノコ

トニハ極メ難シ、是尤珍物タルベシ、朱漆ニテ高萌繪シタル宜シ、總梨地尤宜シ、黒漆ハ朱漆ニツグ、萌繪ハ麟鳳カ桐ニ鳳皇ニテ有ベシ、蝶鳥モ宜シケレドモ、一段シレタリ、又見臺ヲ格子ニシミタルアリ、是モ宜シ。

新ニ造ルハイカッナレドモ、家ニ持傳ヘタルカ、尊貴ノ賜ナドナラバ、見臺ノカハリニ冠棚ヲ用ル甚宜シ、繪ハ真紅ナルベシ、チヨト筆硯ヲ置カ、又ハ書ヲ置ニハ、柳筥モ宜シ。

見臺ヲ美麗ニスルハ、バチラノ唱曲ヲ業トスル者ニ似テイカッナルト云人アリ、モツヲノ外ノクセ事タルベシ、彼等サヘ見臺ヲ魚末ニゼズ、儒生却チバチラノ唱曲者ニ劣ルベケンヤ、儒生ノ見臺ヲ彼等マナビ造レルト云ノ義ハアルベシ、見臺ハ彼等ガタグヒノ物ト心得ルハ淺猿シ、サモナキ無用ノ器ニハ、美麗物數奇ヲイタシ、文房ノ具ヲバ甚魚末ニス、惑ノ甚シキト云ベシ、儒生輩冥加ナキハ、ヒトツハ此等ニモヨレリ。

十三經皆マデハ手トソカズトモ、セメテ尙書論語ヲバ、講釋本ヲ支度スベシ、講釋本ハフタ品アルベシ、宅ニテ用ユルハ卷物タルベシ、尊貴ノ講席ニ用ルハ、折本タ

ルベシ、俱ニ紺紙金泥書ニテ、表番ハ錦ナルベシ、折本ヨリ卷物ヨケレドモ、尊貴前
 ニテハ文鏡、屢尺ノ類、合期シガタキニヨリ、ヤムコトヲ得ズシテ折本ヲ用ユ、儒生
 輩アルニ隨テ僞惡ノ本ヲ用ユ、大段ヲ取失ト云ベシ。

年號ヲバカリニモ書下シニスベカラズ、唐土ヨリ來レル書ノ序ナドニ年號ヲ書
 下シテアルコトハ、ワゲアルコトゾ、本人ハ決シテナスベキコトニ非ズ、寶曆中ニ
 或人ノ翻刻セル法帖ノ跋ニ、寶曆某年日本某人トカキタルアリ、不敬齒弄コノ上
 ナシ、左様ニカクトキハ、寶曆ハ唐土ノ年號ニ成テ、吾國ハ唐土ノ正朔ヲ奉スルコ
 トニナル、至極ノ誤ト云ベシ。

筆記隨筆漫錄ナドノ類ハ、ナニヨラズ、ソノ所懷ヲ書述ルナレバ、事ノ大小理ノ
 淺深、一書ノ中、幾品モアルベシ、タゞ貪欲詐欺猥雜ノコトハ、目見シタルモ傳聞シ
 タルモ、書載ベカラズ、時政ヲ私議スルコト、努々アルベカラズ、第一ツツシムベシ、
 ソノ外ニハ、ヲドケタルコト、ワラベシキコト、無益ノコト、ナニヲカキテモ苦シカ
 ラズ、コレミナ唐土ノ筆記隨筆漫錄ヲ著セル法式ゾ、我祖先ノ美ヲカキ述、世譜世
 系ヲ筆記ナドニカキノセタル例ハ、唐土ニ甚多シ、勝テ數フベカラズ、序文ニ作者

ヲ哀弔スルノ語アルハ、溢美ナシニ有體ヲカキタルモノゾ、但シコレハ作者ニ哀弔スヘキコトアラバカクベシ、ソレハ作者ト序者ノ胸中ニアリテ、時宜ニヨルベシ、警語至論ヲワラベシキコトナカヘイレヲクハ、唐土人ノイヘル、丹砂ノ箱ニ狗血ヲヌリテ、龍王ノ愛トラント云ヲ防グト云ノ義ゾ、鶴林玉露、瑯琊代醉、五雜俎ナト、ミナコノ狗血ノ法ヲ用ユ、序ニ直行草ノ體アリ、事ヲ直序スルヲ真ノ體トス、議論ヲマシユルヲ行ノ體トス、道ヲ借テ議論ヲ主ニイフヲ草ノ體トス、一序ハ真ノ體ナラバ、一序ハ真行ノ體ヲマシヘ用ユベシ、序數多キハ各ツノ書カタアリ、嗜髮集ノ諸序共ヲミテモシルベシ。

吾國ノ書狀手紙ハ、イカニモ通俗ヲ本トスベシ、書狀手紙ヲ唐土メカスハ、正文ヲ得カ、ヌ人ノコトゾ、正文ヲ書ク人ノ俗體ニ、唐土メケル言葉多キハ、マス／＼誤ト云ベシ。

俗體ニ目出度、又ハ珍重ナド、カクベキ所ヲ、恭喜奉リソロ、恭喜仕リソロナド書人アリ、甚書マシキコトゾ、恭喜ハ狂氣ト音ヲナジ、サキノ人忌諱多クバ、意外ノ不敬ニナルベシ、所詮恭喜奉リソロ、恭喜仕リソロナドイフノ正文アルベキヤ、ラテ

俗體ハ右ニイフ通り、イカニモ通俗ヲ主トスベシ、唐土メケル言集雜ミレバ、正文ニアラズ、俗文ニモアラヌ物ニナルトク、譬ハ麻上下ヲ著シ、冠イヲ戴イクガ如シ。

訪ト云字ヲ、トムラフトモ訓ズ、ヨツテ、人家へ見マヒタルコトヲ、御トムラヒモフシタリト云人アリ、ソノ誤アヤマ恭喜ニ同ジ。

紅紫不レ以レ爲レ褻服ヲ、褻服トセズトカ、セツノ服トセズトカ讀ベシ、此等故實トモ有職トモ云、モノイマヒゴマノゴフナド、笑ヒ、俗ナルト誹ル人モアルベシ、ソレハ文章風雅ノ式法道理ヲ知レヌト云ベシ。

詩ヲ作ルニ、門戸ヲサシタルコトヲハ、掩門ヲ、掩扉ヲ、ナド、作ルベシ、閉門ト作ルベカラズ。

笏ヲシヤク、沐浴ヲボクヨクト讀コト、吾國ノ故實ト云傳フ、予ガ所持ノ活字板ノ史記ニ、御前ノ講會ノ式ナルトテ、處々ニ附付有ルアリ、コレヨリ以下幾ク字讀ベカラズト云コト多シ、死喪ノ語ナド、ヨケテ讀ザル式法アリト見ユ、シモジ長クト云語ニヨレバ、平假名ノシノ字、長クカ、ザルコト作法トミユ、凡ソ尊貴ニテノ講

談ニハ、死喪ノ字ナド、ナルタケハ省クヲ、故賞トモ禮トモスル、文ニ臨デ諱ザルノ義ヲ、頑ニ惡ク心得ベカラズ。

獨參湯ヲロク參湯ト云ハ訛ニアラズ、故賞ナルヨシ云ヘリ、北地ニテハ一味トイフ、一味參トイフ語ハモロコシニアリ。

其君ノ出遊ニ供ヲシテ作りタル題ニハ、某月日奉從遊其地ト書ベシ、君命ヲ以テ作レル詩ナラバ、應命ノ二字ヲ添ベシ、遊字命ノ字尤モ擡頭シテ書ベシ、若又主君ノ御隱居、若殿御連枝、叔姪ノ御方ナドニ奉陪スル時ハ、其御表號ヲ書ベシ、表號ナクハ、其居宅ノ地名里名ナドヲ書ベシ、若殿ナラハ、世子ノ二字ヲ加フベシ、其餘ノ御子息御連枝方ヲ公子ト書コト、無理ニテハナケレドモ、見計アルベシ、メタト書ベカラズ、當主ニハ努々少ノ名目ヲモ書ベカラズ、臣タル者、主君ハ一人ナラデハナシ、若其文集ナト板行セハ、其仕國ヲ吾名ノ上ニ書加ルナレバ、千萬年ノ後迄モ間違ナシ、唐土人ニ見セテモ、差支ルコトナシ、只一篇ノ文集ニテモ、シカトシタルコトニハ、仕國ヲ吾名ノ上ニ書ベシ、コレ禮ナルゾ、若又版行スル序文ニテモ、其品ニヨリ書ザルコトモアリ、是亦禮ナルゾ、某藩トカ某國ノ儒學トカクベシ、某文學

トカクハ譯アルコトゾ、メタト書ベカラズ、記室トカクハ誤ゾ、記室參軍ト書ハ誤益甚シ、ソレトモ記室又ハ參軍役ヲ勤ムル人ナラバ、記室ヲハ司書記、參軍ヲハ管議トカクベシ、凡ソ藩國ノ儒者ハ、文學、儒學ノ外ヲ書ハ、皆々誤トシルベシ。

大朝及ビ侯藩ニ徒士頭ト云役アリ、諸役ノ中ニテ此徒士頭バカリハ、譯セラレズ。文章ヲ作ルニ、イハユル關字ノコト、甚心ヲ用ユベシ、空一字、平頭、擡頭、二字擡頭ナド、尤モ明白ニアルベシ。

詩ノ題ヲ末ニ書ハ、偶作咏物ナドニヤアルベシ、唱和ノ作ハ、決シテ末ニ書ベカラズ。贈答ノ詩ヲ藤紙ニハ決シテ書マシキコトゾ、ソノワケ筆記ニ詳ニス、上包ハ奉書タルベシ、横ニニツニ折リ、又三ツニ折リ、中ヘ詩ヲ入レ、上下ヲ折リ反シ、寸許ノ色ノ紙ヲ以テ真中ヲ束ヌベシ、色ノ紙ハ色ノ鳥子色ノ奉書ヨシ、朱藤紙ニテモ苦シカラス、藤紙ニカキ折目ヲツケズ、クルミ卷ニシ、同ジ藤紙ノタチハズシニテウハ卷ヲシ、腫物ニサツル様ニシテ人ヘ贈ルハ、不敬トイヒ、且ツソノ下心ノムサク氣象ノ飢タルコト甚シ、大事ノ腫物ヲトリアツカフ様ニシテ遣ハストモ、ソノ詩文貴重スルニ足ラズハ、折目ハ言フニ及ハズ、即時ニ反古紙トナルベシ、若シ貴重スベ

クハ、折目シハ何程アリテモ寶藏セラル、儒者タル者キタナク飢タル仕方ハ、スマ
ジキコトゾ。

宋朝ノ一大臣宦官李憲ガ足ヲ洗ヒ、大尉ノ足何ゾ香キヤトイヒタレバ、反テ憲ガ
爲ニノリハヅカシメラル、溢美至諛反テ辱ヲ得ルコト多シ、序文ナトカク人、コノ
心得アルベシ、但シ本書ニ不滿ノ事アラバ、辭退シテカクベカラズ、今ノ世ノ藝林
ニハ、李憲ガ如キ者サヘ少シト見ヘタリ。

序ノ正式ハ劉子政ヲ主トスベシ、百ガ九十マデモ、破題眞叙ニカキ出スベシ。
世ニ無益ノ物ハ關防印ナルベシ、余弱冠ノ頃ヨリ今日ニ至ルマデ、關防印ヲ押タ
ルコトナシ。

正文ノ書牘ヲカクナラバ、料紙上包ナド、眞ノ體行ノ體ヲ用ユベシ、草ノ體ヲ用ユ
ベカラズ。

詩文ノ點削ヲ請ニハ、草稿ニ上品ノ紙ヲ用ヒ勿論楷書スベシ、文稿ハ調點ヲ付、句
讀ヲウツベシ、モシ野紙ニ書ナラバ、中一行ヅ、アケテ書ベシ、イハユル半紙ノ野
紙ニ、中一行アケズ、一盃ニ書ツメタル文ノ舛稿ニテ點削ヲ請フ、直シノ言葉ハ何

クニカキツクベシヤ。

點削ヲ請フ詩稿ニ、宴會送別唱和ノ題ナドハ、其人ノ姓字ヲ書ベシ、某氏ト書ベカラズ、先生其人ヲ知ト不知トヲバ論ズベカラズ、ソノ人ニヨリテ詩ノ恰好不恰好アルナレバゾ、何ノカクスベキコトモナキヲ、容體ラシクシテ宜カラズ、且ツ不敬ナルゾ。

版行スル序文ニ年號ヲカ、ズ、惟支干ト月トヲカクコトハ、ヲツトツテ本人ヘ對シテ不敬ナルゾ、ソレトモニ年號ヲカ、ズハ、其人ノ郷貫ナドカクベカラズ、撰ス題スナドノ字ナドモ書ベカラズ、タ、姓名バカリヲ書ベシ、タトヘバ巳丑之春某國表號姓名、書於楊柳深處、又ハ書於某樓某堂中、ナド、カク人アリ、腹ノ皮ト云ベシ。

私印ヲ三ツ押コトハ、唐土ニナキコトト平君恕云ヘリ、三ツ押タル例、唐土ニ甚多シ、サレド三ツ押ニハ及バザルコトゾ、且又異形ノ印押ベカラズ、甚大ナル印モラコガマシ、甚少ナルハシレタリ、ヨキ程ナルヲ用ユベシ、上ハ白文ノ姓名ノ印、下ハ朱文ノ表字ノ印、イツマデモ此通リタルベシ、弟姪ヘ遺ストテモ考アルベシ、子及

ヒ孫へ遣スニ左アルベカラズ。書院ノ名唐ニ始ル明ニ至リテハ天下ノ書院定額アリテ寺觀同前ノトリアツカヒトナル明ノ張居正神宗ノ時首輔トナリテ州郡ノ書院ヲ大ニ省略セシコトヲ時人甚稱美ス明ノ一統志ニ州郡ゴトニ書院寺觀トカキ出セリ明學ヲスル儒生ハ書院ト云コトヲテハ知ザル人モアルベシ明學ヲセサル人ハ白鹿洞書院ノ名ハ聞覺タルラツソレモ書院ノ寺觀ト同然ナルコトヲ知ラザル人多カルベシアル一大儒ノ文ニ御書院番頭ト云コトヲ書院番頭ト書レタリ其人ハ醇雅ノ大儒ニテ輕薄ノ風アル人ニテハ無レドモ唐土メカスノ流弊ヘイレイ我知ラズ此ニ至ルコレ書院ト云字ノ唐土ニアルヨリコノ誤ヲナセリ唐土ニ云書院ハ儒生ノ聚ル所ニテ手近ク替テイハハ釋氏ニイフ所化寮禮場ナド云フノ類ゾ吾國ニテノ書院ハ座鋪ノコトゾ庶幾大ニカハレリ唐土人コレヲ見バ書院番頭ハ番生部屋ノ役人ノコトト思フベシ吾國ノ言葉ニテハ番頭トコソイヘ番帥トハイハズ書院番帥ト云コト吾國唐土何レヘモ片付カズ所謂麻上下ヲ著テ冠ヲ戴ケルノ類ナルゾ書院番頭ト書ズバ中軍帥ト書ベシ。

先生ニ進ムル肴代ノ上包ニ、東修トカク人多シ、笑ベシ、東修ハ東タルホシジニテ、手近ク譬ヘバ、鯉節一連ト云フニ同ジ、鯉節一連ト書テ恰好スベキヤ、御肴代トカクガ宜シ、左モナクハ、一短牘ヲ以テ正文ニ書ベシ、其物ノ上包ニ都合セヌコトヲ書バ、麻上下冠ノ類ナルゾ。

肴代ト云コトヲ魚價トカクハ誤リ益甚シ、線香代ヲ折香ト書モ誤リゾ、折香折魚ナド、算用ガキニハ用ユルコトモアルベシ、禮辭ニハ、用ユベカラズ、算用ガキニ書ナラバ、魚折香折ト書ベシ。

五山ノ詩會ニ短冊切ト云式アリ、予ガ義祖父ノ老人雜話ニ委シケレバ、コヽニ畧ス。

古人ヲ論ズル中ニ、予ガ點削セザル論三ツアリ、其全文ヲ見ルニ及バザレバ、點削ニモ及バズ、ソノ三ツトハ、小松大臣楠公大石氏ゾ、此三人ハ億萬ノ人稱美ス、コノ三人ノ論ト云カラハ、褒ルニテハアルマジ、コレ見ルニ及バサルノワケゾ、ステニ見ルニ及バズ、何ノ點削スルコトコレアラン。

釋氏ノ徒、宗派多ク分レ、互ニ相誹ル、其中ニ日蓮宗一向宗ナドハ、コトニ我強キ者

ゾ、然レドモ宗派互相誹レドモ、佛教ヲ主張スルコトヲバ知ル、儒者ハ儒教ヲ主張スルコトヲシラズ、聖人ノ道萬古不滅ナルハ云マデモナシ、今ノ所謂儒者タル者ノ世ニ存在スルハ、神祖ノ御蔭ト、惺窩羅山ニ先生ノ惠ニヨレリ。

淨土宗法華宗ハコトニ中ワロキモノトゾ、然レドモ法華僧ニ向テ、淨土僧ノ念佛誦經ノ功力ニヨツテ、幽靈妖怪ナドヲ殺ヒ除シ事ヲ語ランニ、其僧ト念佛トヲバ、非トスルトモ、其事ヲバナシトハイハズ、淨土僧ニ法華僧ノ事ヲイフモ亦然リ、餘宗ノ僧徒亦皆然リ、鄙諺ニ云仲間ワレトモグヒスルト云コトハ、釋氏ニハナシ、儒者ハ左アラズ、知己信友ト云ル、中ヲモ互ニキメゴマカニ誹ル、甚シキニ至テハ父子兄弟叔姪トイヘドモタガヒニ相誹ル、儒者ノ冥加ナキコト亦ムベナラズヤ。近頃ノ儒生、宋儒ノ學ヲ誹リテ陰陋ナルト云、所謂明學ヲスル人ハ陰陋十倍ス、一生所讀ノ書七八種ニ過ズ。

書ヲ讀者ハ、膽識ヲ具フベシ、理外ノ毀譽得喪ニハカマフベカラズ、大中至正ノ大本ヲ主トスレバ、膽識俱ニ自然ニ生ズ、錦戶五人ノ兄弟四人ハ一味シ、和泉一人一本立トナツテ死ス、寡助之至、親戚畔之ト云テ、毀ルベケンヤ、道具ヲトシモ時ニコ

諸雜藝ニ地ト云コトアリ、地ガ佳キ惡キ強キ弱キナド云、儒者ノ道ニモ地アリ、儒者ノ地ト云ハ歴史ナルゾ、經書ハ儒者、大本云マデモナシ、歴史ヲ精熟スレバ、文作ラル、詩作ラル、ト云ニテハナシ然レドモ經書ヲ讀ニモ、詩文ヲツクルニモ、歴史大ニタスケラス、イハユル學問ノ地ナルゾ、學問ノ地ナケレバ、經書モ詩文ソノホカモ、根ナクシテ風ニ吹倒サレヌベシ、地アレバマヅナニヨリモ手ゾヨシ。書ヲ讀ニ、龜從フ、筮從フ、卿士從フ、庶民從フトヨミ、徒行ヲ徒、行ト讀ミ、景從雲合ヲ景從雲合トヨミ、斬首許多ヲ斬首許多ト讀ム、或人予ヲ誅リテ、此讀方ドモ無益ノコトゾ、書生葦士ヲ欺キテ、半斤八兩ノ教方ヲナスト云ヘリト傳聞ス、左様ニ鹵莽ナル學風ニテハ、眞ノ學問成就スル人ノナキハ怪ムニタラズ。

徒行ヲヨミニ讀ナラバ、カチユキシテト讀ベシ、カチヨリユキテトハ、決シテヨムベカラズ、カチヨリユキテト讀バ、只徒ニテ行コトニナル、カチユキト讀バ、名目ニナル、論語ノ本意名目ナルニ因テゾ、サレドカチユキシテト讀バ、コトヤウニテ耳立ヲ以テ、徒行トヨム、斬首許多モヨミニテイヘバ、キルクビト讀ベシ、キリタル首

ヲ後ニ數テ見タル義ゾ、首ヲ斬コト、讀バ、本義違ヘリ、去ドキル首ト讀モ耳ダツ
ニヨリ、斬首ト讀ム、景從雲合ハ景ノ從フゴトク、雲ノ合ガ如クト讀ヘシ、景ノ如ク
從ヒ、雲ノ如ク合トヨムハ誤リゾ、是亦官長ニヨリ、景從雲合ト云、娶某氏、産子某、字
某、亡、葬某地、累遷某々官、コレ等ハ加様ニ讀ベシ、ニゲテ葬ト云ト、ニゲテ奔ルト云ト
ハ義カハル、谷其文ニヨツテ、二様ニ讀ベシ、句中ニ及ト云字アル所ハ、十二九ツハ、
及ノ上ニテ句ヲイレ、及云云ヲサヘニト讀ベシ、コレヲノ事ヲ精熟セザレバ、主客
混ジテ意ノ顛倒ヲ生ズ、訓點函莽ナレバ、名目ニナルベキ所ヲ、名目ニヨマズ、ナル
マシキ所ヲ名目ニ讀ム、死字ヲ活字ニヨミ、活字ヲ死字ニヨム、書ヲ解スルニモ、文
ヲ作ルニモ、害損甚シ、今其一隅ヲアグ、三隅ヲ以テカヘサバ、讀書作文ニ於テ、思ヒ
半ニユギン。

唐土人ハ一直ニ讀下ス、カヘリ點ナシ、唐土ノ書ニ歸リ點ノコトヲ吟味ス、無益ト
云ベシ、人ヲ欺ト云ベシ、讀書ニ訓點ヲイフハ、畢竟少シノ功モナシト云人多カル
ベシ、コレ是ニ似テ甚非ナルゾ、譬ハ綿入ト云モノハ、費多シトイフテ、冬モ帷子ヲ
著テ居ガ如シ、唐土人ハ四聲ヲ以テ義ヲ通ズ、コノ四聲吾國ノカヘリ點ト、コトハ

大ニカハテ、功ハ全ク同ジ、吾國ニテ四聲ヲ云ハ、猶木ニヨツテ魚ヲ求ルガ如シ、全ク其益ナシ、唐土人ハ四聲ヲ吟味スベシ、吾國ノ人ハ訓點ヲ吟味スベシ、コレヲ夏ハ帷子、冬ハ綿入、飢テ食ヒ、渴シテ飲ム、大中至通ノ道ト云。

儒生タル者、世ニ云茶香立花其外ノ諸雜藝ハ慰ニコレヲスルトモ、過リニテモナシ、所謂唐土音ヲ習フコトモ、茶湯立花ナドヲ學ブ心ニテ學ブベシ、吾國ノ人ノ眞ノ學問ニハ、功益ハナシ、學問ノ功益ニセント思テ學ババ、大ナル誤リゾ、右ニクレダレモイフ通り、諸雜藝同事ト思テナスベシ。

和讀要領ニ訓點ノコトヲ云タル、其意ハ美ナレドモ、少シモ要領ヲバ得ズ、予高維享ガ所持ノ本ニ、逐段ニ其誤リヲ正シ置ク、畢竟主客ワカレザルニヨレリ、宇士新ノ訓點ハ、樊紹述ガ文解大紳ガ書ニ同ジ。

唐土ニテモ山東音ハワロシ、齊魯ノ地ハ山東省ノ内ゾ、魯ハ聖誕ノ地ナレドモ、西晉以後久シク戎狄ノ域ト化シタルニヨレルナルベシ、金陵杭州ハ、春秋ノ時ニハ俱ニ南蠻ナレドモ、東晉以後ハ禮學文物ノ郷ト化シタルニ因テ、晉音甚宜シ、八閩ノ地モ、唐以後ハ文風日ニ盛ンナレドモ、音ハワロシ、八閩ノ内ニテモ、漳州ナドハ、

外國人同然ナルヨシ云ヘリ。

李于鱗ハ山東ノ人ナルニヨツテ、聲音ヨロシカラズ、揚屋中ニテ度々笑ヲトル、于鱗コレヲ口惜ク、思ヒ、舌ヲサシテ血ヲ出シ、齧テ聲音ヲ正ス、後ニハヨカリシト云コト、劉氏鴻書其外明末ノ諸書ニ出ヅ、于鱗始メ郷學ニ入シ時ヨリ、才名既ニ人ニ勝ル、八閩ニモ有名才子多シ、漳州ノ人藝文ニ名アルモ、勝テ數フベカラズ、見ベシ唐土人トテモ、學藝ハ畢竟其人ノ才不才ニヨル、必シモ四聲ニヨラズ、況ヤ四聲ヲ吾國ニ云ラヤ、唐土音ニテ讀ザレバ、學業ナラズト云ハ、コレゾ誠ニ欺妄ノ甚シキト云ベシ。

橋箸端ナド、京師ノ人ハ自然ト分ル、他國ノ人ハ一ツニ混合ス、タトヒ混合シテモ、上下ノ言葉續ニテ、大ナル間違ヲバナナズ、長崎ニアル唐土人、タトヒ此三ツヲ言分ルトモ前後ノ言葉ツツキ都合セザレバ、事ノ用ニハ立ズ、吾國ノ人タトヒ四聲ヲ精熟ストモ、事ノ用ニ立ザルコトモ、亦是ニ同シ。

鶴林玉露ニ筆墨硯ナトヲ、吾國ノ訓ニヨミシコトアリ、全漸兵制ニハ甚多シ、玉露ニ載スルニハ、硯ヲ松蘿利必、墨ヲ蘇彌筆ヲ分直トアリ、吾國ノ人唐土人ト對話セ

ソニ、通事ナク華語スル時、唐土人筆墨硯トカキナバ、吾國ノ人合點ス、松蘇利必蘇彌、分直トカ、バ、吾國ノ人合點スベキヤ、唐土人ノ天竺鞆韃人ナドノ名目稱呼ヲ譯セシモ、皆此類ト知ベシ、吾國ノ人ノ詩文中ニ、天竺鞆韃ノ名目稱呼ヲ用ユルコトアルハ甚誤ゾ、天竺鞆韃人ニ見セバ、一ツモ合點スマジ、事文類聚中ニアル外國ノ稱呼ナド、決シテ詩文中へ入ルベカラズ、モシソレ吾國ノ歌ニマシラナド、云語アル、久シク通用シタルコトナレバ、吾國ノ歌及ビ文中ニハ用ユルトモ、其例ヲ以テメタトハ用ユベカラズ。

童子ニ素讀ヲ教ユルコト、點附ノ本ニテ讀シムベシ、無點本ニテ讀シムルコト有ベカラズ、無益ナルノミニ非ズ、害アリ。

書ヲ會讀スルコト、マヅハ無益ナルコトゾ、大概式正ノ通リニ會スルハ、體面ハサモトラシケレドモ、所謂小田原評定ト云如クニシテ益ナシ、式正ニカマワズ、多ヲ食リテ讀ハ、救火隊ノ押前ノ如クニシテ、是亦益ナシ、眞ノ會讀ト云フハ、人數四五人ニ限ル、面々ノ異見ヲモ腹藏セズシテ云フベケレドモ、先ハ一人ノ先達ヲ立テ、ソノ人ノ一齋一咳ヲモ心ヲ付テ聽ベシ、先達ノ言語ニ枝葉サクカ、又ハ先達ノ

言其會讀ノ書ニ關ラヌ沒緊要ノ語ニナレバ、無益ノヒマヅヒヤシト思ヘル氣色面へ見ハレ、或ハ斜影シ、或ハ欠伸スルニ至ル、左様ノコトニテハ、中々眞ノ學問ハ成就セズ。

平日ノ讀書ハ無言ナルガ宜シ、會讀ノ時ハ、イカニモ句讀ヲヨクワケテ、シカモ流水ノ如クニ讀ベシ、平日訓點ノコトニ心ヨセナケレバ、晴ナル席ニテ書ヲ讀ニモ野鄙俗陋ニテ甚無骨ナルゾ、是ニ氣附テ、句讀ヲワケントスレバ、ギテトツマヲテ、甚キ、苦シ、平日ノ心得ナキニヨツテゾ、尊貴ノ前ニテノ讀書ハ、一入心得アルベシ。

尊貴ノ前ニテ即席ノ詩ヲ作ルハ、五言律宜シ、中二聯ヲ、一聯ハ景、一聯ハ情ト作ルベシ、數多ク作ル時ハ、二聯俱ニ景ノ詩、全首皆景ノ詩モアルベシ、二聯皆情、全首皆情ノ詩ヲバ作ルベカラズ、尤中ノ二聯ヨリ思ヲ起スベシ、起句ヨリ作ルト云ハ、上手名人ノ事ナルゾ、徒ニ向上論ヲナシ、實功ナキハ、所謂口ヲ以テ賊ヲ討ト云ニ同シ。

文章ノ稽古ハ紀事ヲ書テ第一トス、傳ハ紀事ヨリカキニクケレトモ、稽古ニハ紀

事ニツグ、記ハ又傳ニツグ、稽古ニハコノ三ツヲ以テスベシ、コノ三ツヲカキ覺ヘ
 エレバ、序跋ハ自然ニカ、レルモノゾ、論ハ稽古ニハ決シテ書ベカラズ、益ナキノ
 ミニアラズ、大ニ損アリ。

文章ノ最難シトスル所ハ碑文ナルゾ、圖畫ノ目錄コレニツグ、書目ハ畫目ニツグ
 傳ハ書目ニツグ、書畫ヲ多ヲサメタル人ノコトヲイフニ、書目未タ出ズ、畫目イマ
 ダ出ズシテ没ス、惜ムベシト云コト唐土ノ書ニ甚多シ、書目畫目ノ義是ニテモ考
 ヘシルベシ、若タソニ今ノ世人ノ云目錄ヲカクコトナラバ、千萬卷ノ書目畫目モ、
 一日ニモ成ベシ、何ノ出未出ヲイフコトアラシヤ、唐土人ノイヘル書目畫目ヲ、今
 ノ世人ノイフ目錄ト心得タル人モアルベシ、諷甚シ、笑フベキコト甚シ。

詩ヲ選スルニ、數首アル詩ヲ節略シテ載スルコト、唐土人モスルコトナレトモ誤
 リゾ、數首アル詩ハ、第一首ヲ起句トシ、終ノ詩ヲ結句トシテ作ルモノナレバ、何首
 有テモ皆載ベシ。

唐土ニテモ文章ニ顛倒アルコトハ證據甚多キコトゾ。

詩集ヲ版スルニ、五七言古詩五七言律絶計アルハ、先ヅ一段奥深ク思ハル、モノ

ゾ、寄贈寄題ナドノ詩多キハ、先思劣リセラル、ゾ、但シ海内ニ名高キ大手筆ノ集ハ此例ニハアラズ。

詩ノ題下ノ自注心ヲ附ベシ、譬ヘハ駿河ヘ歸ル人ヲ送ル詩ニ、富士山ノ事ヲ云テ、其題下ノ自注ニ、富士山在駿河、加探ニ書ハ俗習ゾ、國中有富士山、加探ニ書ベシ、堂室園池ノ類モ是ニ準ズ、勿論ソノ人ヘヤル本紙ニハ決シテ書ベカラズ、題下ノ自注云々句中故及ナド、書コトモ、本紙ニハ決シテ書ベカラズ、是ヲカケバ皆俗習トナル。

明一統志明會典、加探ニカクベシ、大明トハカクベカラズ、大元大明ノ大ノ字ハ、ワケアルコトニテ、タ、ニ美稱ニハアラズ、ソレサヘシカリ、大漢大唐ナドハイフマデモナシ、清人ノ書ニ前明ト云コト多シ、是モ誤リゾ、同シ唐土人ナレトモ、女直ヨリ入テコレヲオサメラル、ニヨリ、皆不文ノ俗ニ化シタリト覺ユ、凡ソ清人ノ稱呼ハ、左券ニトラレザルコト多シ、明マデノ語ハ、事ノ是非得失ハ格別、ソノ稱呼ハ皆左券トスベシ、明人モ前元ト云コトアレトモ、何ニシテモ誤ナルゾ。

越王句踐、松江行宮行在場帝ナド、何ノ意義ナクトモ、左様ニヨムベシ、杜撰、孟浪モ

此類ナランカ、東南ト云コト、東ハ正訓ニシテ、南ハ杜撰ナルト、富士谷仲達云ヘリ、田舎ノ語反リテ意義アルコト多シ、京師ニテ香物ヲ出スト云フ、郷里ニテハツケ物ヲアゲルト云、儒生輩ハ意義ノ都合不都合ヲバ、風ノ吹ニモ心ヲ附ベシ。

詩中ニ用ユル地名ハ、傭メ用ユルモ、サノミ苦シカラズ、詩ノ題ニハ宜シカラズ、文ニハ決シテ用ユベカラズ、左アリトテヤムコトヲ得ルニハ、名ノ雅ナラザルハ用捨スベシ、白下五泄ハ共ニ名高キ勝地ナレドモ、名ノ不雅ナル故ニヤ、唐土人ノ題詠ニ甚少シ、當時ノ地名官名ヲカヘモチユルノ弊風ハ、明ヨリ始ル、李王ヲツノ罪魁トス、明ニテハ長安ヲ西安府ト云、燕京ヲ北京順天府ト云、李王ガ徒ノ長安ト云ハ北京ノコトゾ。

兵憲學、離臺晉蘭ナド云ハ、官名ノ別稱ニハ非ズ、或人ノ明詩ヲ注セルヲ見ルニ、此等ヲ官名ノ別稱トス、笑フベシ。

天仙宮ノ白松、詳ニ名山記ニ載ス、飛來雙白鶴ノ詩ニ、分行栖玉署ハ、馬侍御父子ノコトヲ云、詳ニ于鱗文集ニ出ヅ、玉署ハ翰林ヲ云、唐ヨリ此稱アリ、宋太宗ノ故事最トモ名高シ、香山寺ハ北京ニアリ、山上ニ蟾蜍石アリ、西湖ニ上中下ノ三天竺寺ア

リ、北京ノ西湖ハ、杭州ニ在ルモノヲ摸シテ、是亦三天竺寺アリ、元美が香山寺ノ詩、是ニテ明白ナルゾ、于鱗ガ詩ノ崔駟馬ハ、駟馬都尉崔元ト云者ゾ、嘉靖帝ヲ迎立スルノ功ヲ以テ、京山侯ニ封セラル、峯頭玉蕊ハ驢山ノ故事、紆畫ハ書字ヲ作ルヲ云、春渚紀聞ニイヅ、明光起艸君休薄、薄ヲ簿籍ノ解ヲ作スハ誤ル、薄ト簿ト通ズ、諸ノ字書ニ出ヅ、郭使君還豫章ノ詩、解者多ク誤ル、意義モト明白ナルゾ、尙書郎明光官ニ起章スルノ故事ハ、南史ニ出ヅ。

李太白天門山ノ詩ノ第二句、碧水東流至北廻、大江天門山ノアタリニテ北流スルコト三十里バカリ、又廻リテ本流ヘ入リテ東流スルコト、通鑑晉紀ノ注ニ出ヅ、張隴陽聞笛ノ三四、直ニ隴陽ソノ僚佐ニイワレシ語ニテ、注脚トナル、本傳及ビ通鑑ニ出ヅ、前ニイフ歴史ガ藝文ノ地トナルコト、此等ニテモ考ヘ知ベシ。

仲麻呂ノ五言排律、唐詩品彙ニイヅ。

尊貴又ハ老儒ナドノ壽詩、又ハ追陪ノ詩ナド、甚急ナル時ハ、七言歌行、日數アル時ハ、五言排律ニテ作ルベシ、五言排律ハ、八韻ヨリ十二韻位ヨロシ、イフベキコト甚多クハ、二十韻以上ニテモヨシ、六韻ノ排律甚ヨロシカラズ、悼弔ノ詩ハ、七言絶句

ニテ十首マデハ作ルベシ、悼弔ニ二十韻以上ノ排律ヲ作ルコト、唐土人モ多クアレトモ、ヨロシカラズ、四言古詩、七言排律ハ、一生作ラヌコトト心得ベシ、樂府ノ四言ハ苦シカラズ。

表號又ハ表字翁トカクハ、先生トカクヨリ一等尊恭シタル語ゾ、觚不觚錄十二代詩選其外諸書ニ出ヅ、今日ニテハ、先生ヨリサゲタル語ト覺ヘリ、尊恭スルニハカクベカラズ、叟トカケバ甚下レリ、凡ソ吾師ニテモ、師ナラザル人ニテモ、儒者ヲ尊稱スルノ至極ハ、表號ノ一字ニ翁ヲツケ、老先生ト書コトゾ、譬ヘバ東涯先生ナラバ、涯翁老先生トカクノ類ゾ、吾師ヲ尊稱スルノ至極ハ、タゞ老先生トカクベシ、尊師老先生トカクハコレニツグ、表號老先生トカクハ、又其次ゾ、明ニテハ宰相ヲサヘ老先生ト云。

蘇子瞻兄弟、袁伯修兄弟、ハ、友愛ノ名甚高シ、互ニ表字ヲ呼テ、表號ヲモ名ヲモ呼バズ、兄ヘノ詩文ニハ、長公仲公トカクベシ、兄ヲ他人ヘ云フニハ、狎タル人ナラバ、兄ノ表號ヲイフ、一面識ヘハ、伯氏仲氏ト云、文章ニハ狎タルニモ狎ザルニモ、伯氏仲氏ト書ベシ、是皆唐土ノ例ヲ以タイフコトゾ。

唐土人ハ物ノ數ヲ舉ルニ多クハ枚ヲ以テス、筆一枚墨一枚ノ類是ゾ、吾國ノ人モ、詩文中ニハ用ユベシ、若夫筆墨ナドヲ人ヘ贈ル上包ニ筆二枚墨二枚ト書ハ、輕薄ナルゾ。

足下、公等、不佞^{ボウテイ}ナド、正文ニハ用ユベシ、通俗ノ文及ビ平生ノ談話ニハ、輕薄甚シ、足下ハ御出ナサレタカ、公等ハ御覽ジタカ、不佞ハマイラズソロナドイフ語、吾國ノ人トモ唐土人トモイハレズ、凡ソ詩文ニ事實名目稱呼ナドハ、全ク吾國ノ體ニテ、詩文ノ作り方ハ、全ク唐土ニテ、シカモ古キスガタナルベシ、事實稱呼名目ナトハ、唐土メカシテ、詩文ノ作り方ハ俗習多キコト、今ノ儒生ノ通弊ゾ、冠履顛倒スト云ベシ。

五、字ノ腰カソミタル明ヲ明ニ、鐘ヲ鐘ニ、燈ヲ燈ト書タルナド、誤ニアラズ、惡キコトニテモアラザレトモ、アナガチニソレバカリモノシリ顔ナルモ、輕薄ニチカシ、檀浦ノ戰ニ、平内大臣ヲ囚ニス、内大臣ヲ解官シテ、讃岐權守トス、源平盛衰記ニ見ユ、太平記ノ目錄ハ、後人ノ附タルモノヤ、ソノホドハ考ヘザレトモ、天皇御謀反ノ事ト云ノ語アリ、痛嘆スベシ、以後ノ書ドモニハ、貴人ノ社稷ニ狗セ玉セシコトモ、

忠臣義士ノ節ニ死シタルコトモ、ヲシナヘテ伏誅ト書ケリ、善人ノ死ヲ伏誅トカ
カバ、惡人ノ死ヲハイカガ書ベキヤ。

罷免ノ二字、トモニ官ヲ解クコトナレドモ、褒貶ノ義ハ大ニカハル、唐土ニテハ狗

ウツ童モ知リタルコトゾ、吾國ノ今ノ儒生ハイカバアルラン。

古之學者爲己、今之學者爲人、聖言ノ已佩服スベキハ云ニモ及バズ、聖人ハ亂世ニ

出サセラレタレドモ、時風ノ輕薄ナラサルコト、是ニテモシルベシ、後世ニテハ、人

ノ爲ニスル學者アラバ、甚敬重スベシ、百ガ九十マデモ、ミナ己ガ爲ニス、ソノ己ガ

爲ニスル仕方ノ大ニカハリアルコトハ、云マデモナシ、今日ニテハ己ガ爲ニスル

バカリノ學者モ貴ブベシ、多クハ誤ヲ人ニ傳ヘテ、後輩末學ヲシテ、鄙諺ニ云生レ

モツカヌカタワニスル學者多シ、學術ヲ業トスル人ハ、マヅサシアタリ誤ヲ人ニ

傳ヘザルコトヲ先務トスベシ。

唐土人サヘ吾國ヲ東方君子國ト云ナルニ、吾國ニ生レテ、假初ノコトニモ倭習ナ

ドトイフ人ハ何ト心得テ居タルヤラン。

日本詩話叢書

四〇

6
藝苑譜終

跋

清君錦先生撰著諸書其既梓行者數種迨乎藝苑譜成受業諸子請而版之使聖訓跋焉嗚呼先生之業能博能約大不遺小於先生之業是特其小小者抑亦砥柱急流藥石沉疴者功豈不偉哉序既悉焉因謹記版成歲月爲跋。

明和己丑夏六月

姪 伊藤聖訓拜